

## IV 医療従事者

(平成20年医師・歯科医師・薬剤師調査及び衛生行政報告例から)

### 1 医師

#### (1) 医師数

平成20年12月31日現在の医師数（従業地）は、10,393人であり、前回調査年の平成18年（10,016人）に比べ377人、3.8%増加している。

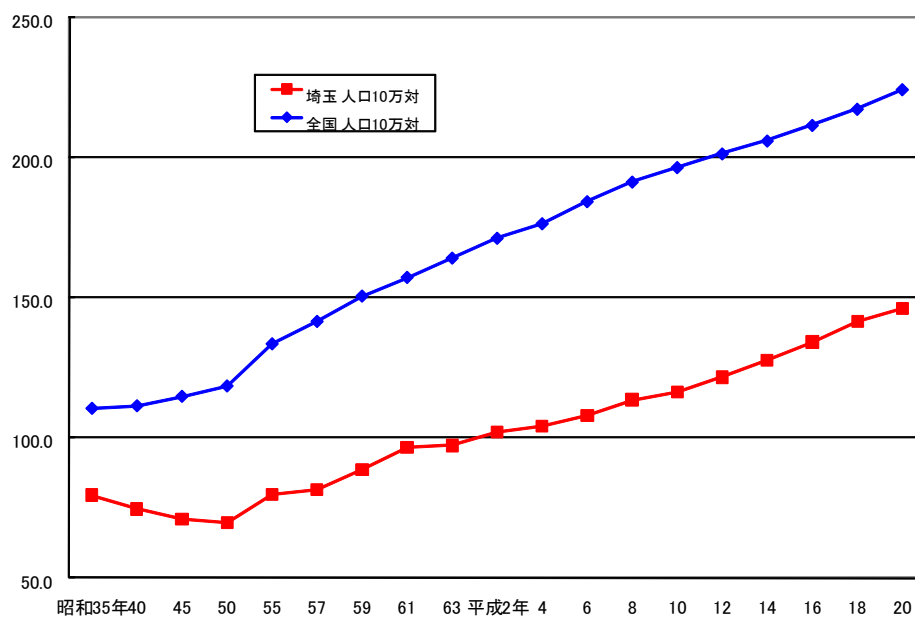
人口10万対医師数は、146.1人であり、平成18年（141.6人）に比べ4.5人増加している。これを全国（224.5人）と比較すると、78.4人少なくなっており、全国第47位である。

表39 医師数の年次推移（従業地）

		昭和35年	40	45	50	55	61	平成4年	10	16	18	20
埼玉	医師数	1 936	2 248	2 742	3 362	4 317	5 747	6 828	8 031	9 454	10 016	10 393
	人口10万対	79.6	74.6	70.9	69.7	79.9	96.6	104.1	116.5	134.2	141.6	146.1
全国	医師数	103 131	109 369	118 990	132 479	156 235	191 346	219 704	248 611	270 371	277 927	286 699
	人口10万対	110.4	111.3	114.7	118.4	133.5	157.3	176.5	196.6	211.7	217.5	224.5

各年12月31日現在

図45 人口10万対医師数の年次推移（従業地）



(2) 保健医療圏別にみた医師数

ア 医師数を保健医療圏別にみると、さいたまの1,887人が最も多く、川越比企の1,612人、西部の1,499人がこれに次いでいる。(図46)

イ 人口10万対医師数では、川越比企の202.3人が最も多く、西部の191.2人、さいたまの157.2人がこれに次いでいる。(図47)

図46 保健医療圏別にみた医師数

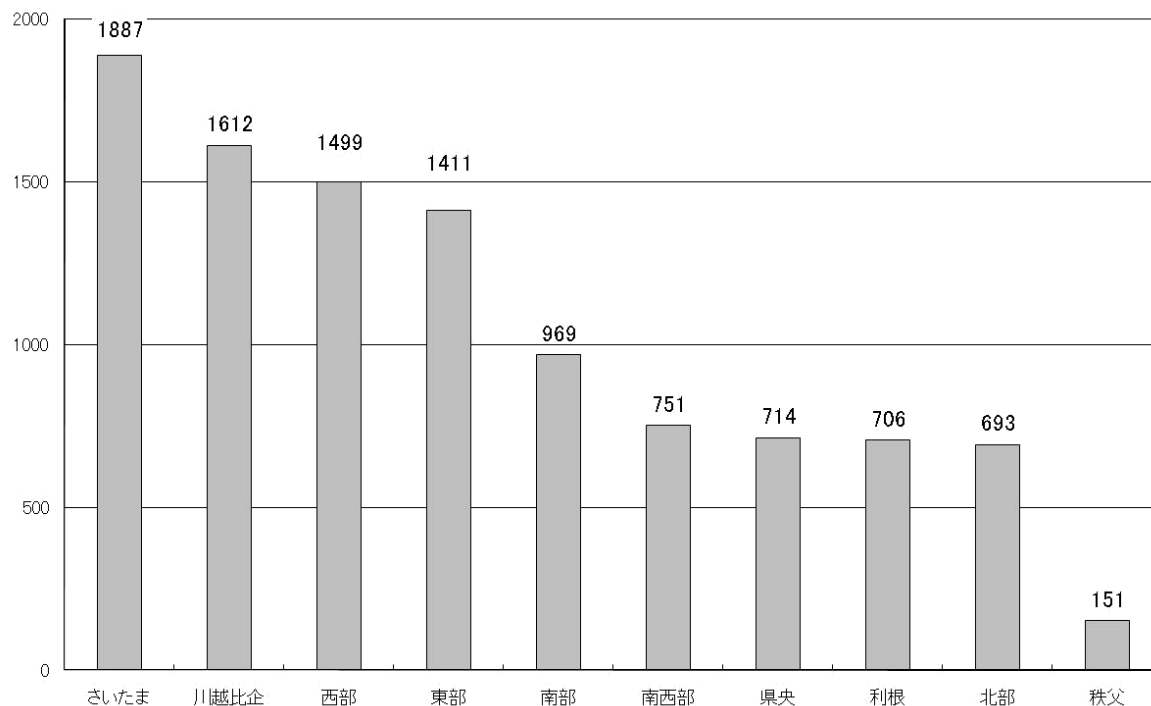
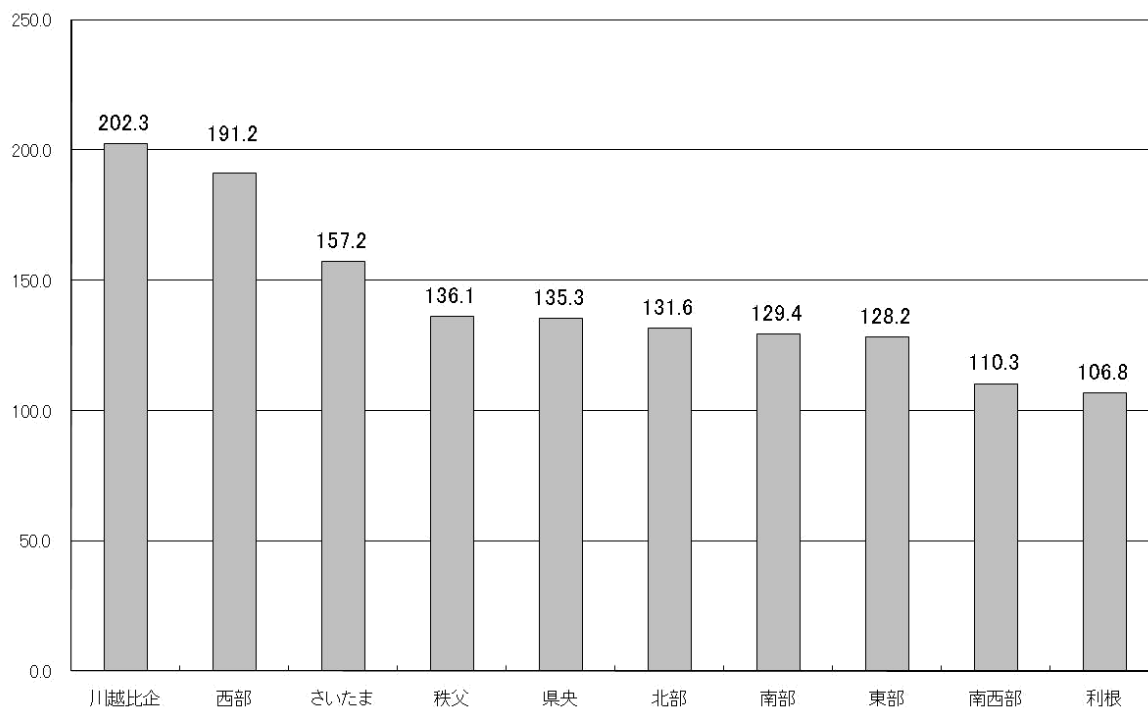


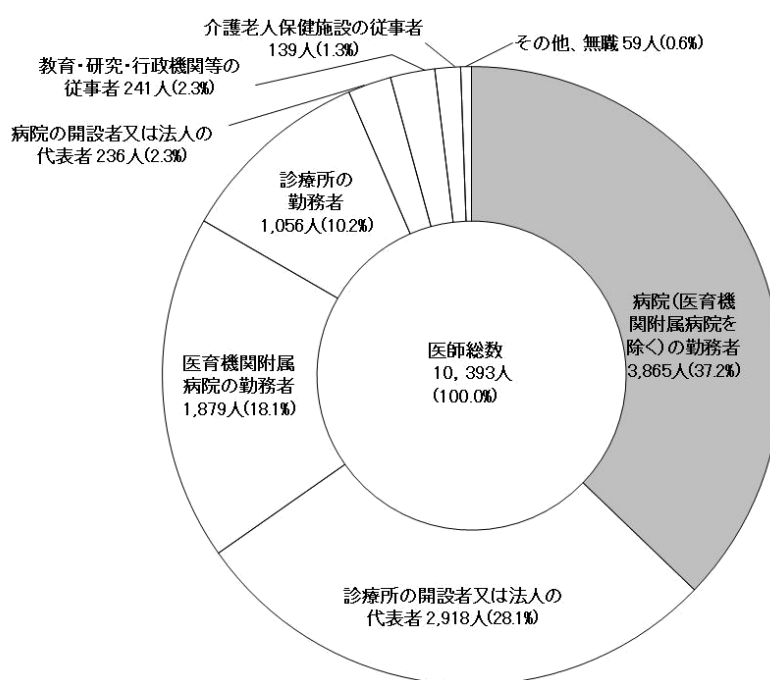
図47 保健医療圏別にみた人口10万対医師数



(3) 業務の種類別にみた医師数

医師数を業務の種類別にみると、9,954人（総数の95.8%）が、医療施設の従事者であり、その内訳をみると、病院（医育機関附属の病院を除く。）の勤務者が3,865人（同37.2%）、診療所の開設者又は法人の代表者が2,918人（同28.1%）、医育機関附属の病院の勤務者が1,879人（同18.1%）などとなっている。（図48）

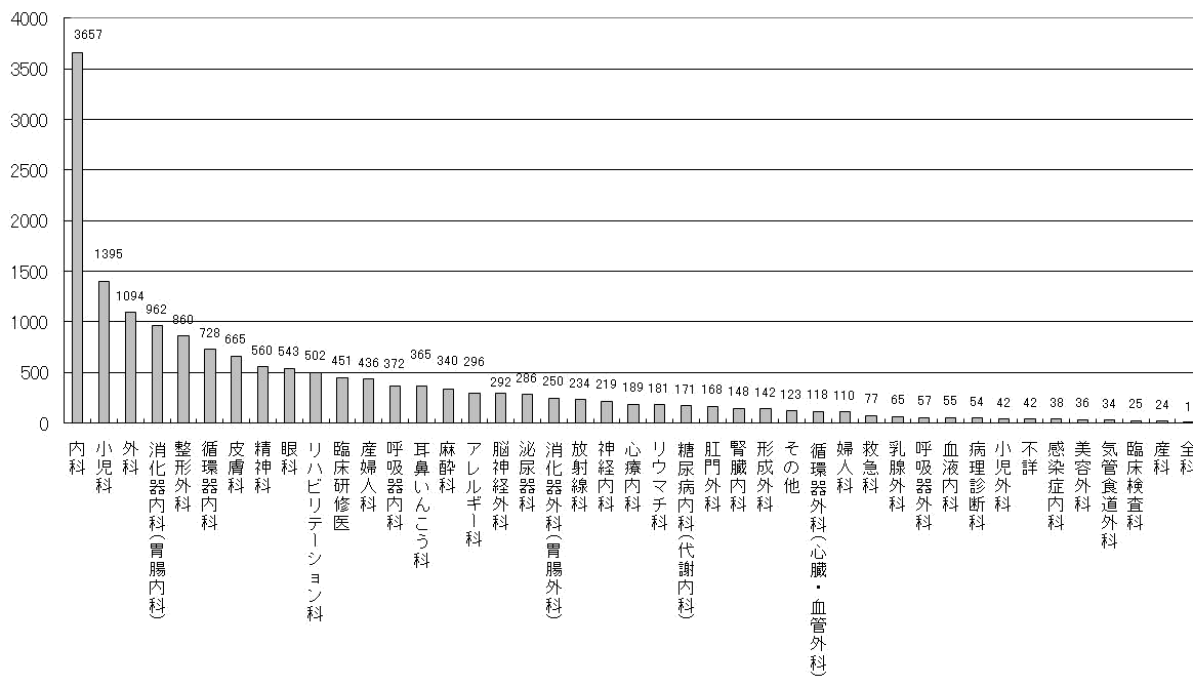
図48 業務の種類別にみた医師の構成割合（従業地）



(4) 診療科目別にみた医師数（重複計上）

医師数を診療科目別にみると、内科が3,657人と最も多く、以下、小児科の1,395人、外科の1,094人がこれに次いでいる。（図49）

図49 診療科目別にみた医師数（従業地・重複計上）



## 2 歯科医師

### (1) 歯科医師数

平成20年12月31日現在の歯科医師数（従業地）は、4,812人であり、前回調査年の平成18年（4,637人）に比べ175人、3.8%増加している。

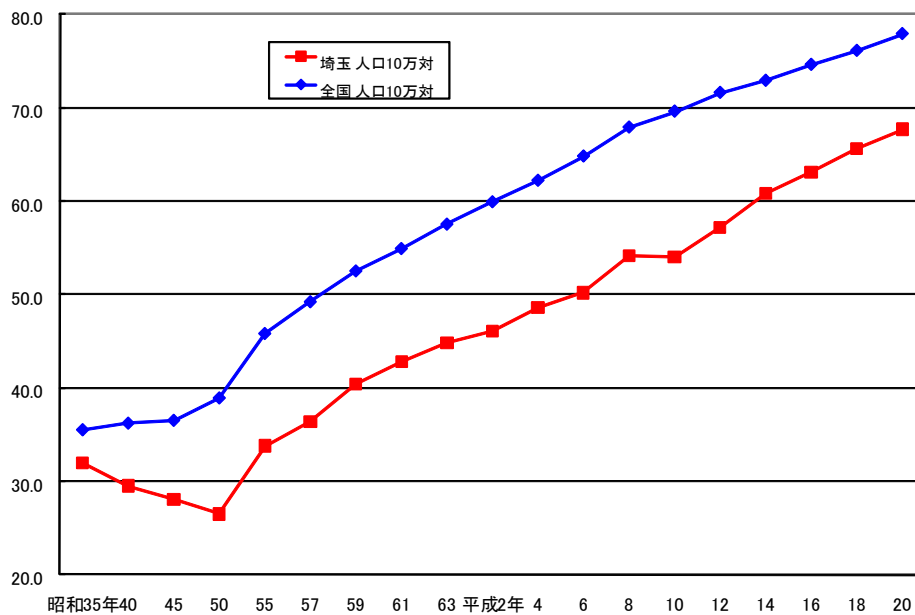
人口10万対歯科医師数は、67.7人であり、平成18年（65.6人）に比べ2.1人増加している。これを全国（77.9人）と比較すると、10.2人少なくなっており、全国第24位である。

表40 歯科医師数の年次推移（従業地）

	昭和 35 年	40	45	50	55	61	平成 4 年	10	16	18	20
埼玉											
歯科医師数	777	888	1 086	1 277	1 827	2 546	3 189	3 723	4 445	4 637	4 812
人口 10 万対	32.0	29.5	28.1	26.5	33.8	42.8	48.6	54.0	63.1	65.6	67.7
全国											
歯科医師数	33 177	35 558	37 859	43 586	53 602	66 797	77 416	88 061	95 197	97 198	99 426
人口 10 万対	35.5	36.2	36.5	38.9	45.8	54.9	62.2	69.6	74.6	76.1	77.9

各年12月31日現在

図50 人口10万対歯科医師数の年次推移（従業地）



(2) 保健医療圏別にみた歯科医師数

ア 歯科医師数を保健医療圏別にみると、さいたまの 892 人が最も多く、川越比企の 808 人、東部の 626 人がこれに次いでいる。(図 51)

イ 人口 10 万対歯科医師数では、川越比企の 101.4 人が最も多く、秩父の 77.5 人、さいたまの 74.3 人がこれに次いでいる。(図 52)

図 51 保健医療圏別にみた歯科医師数

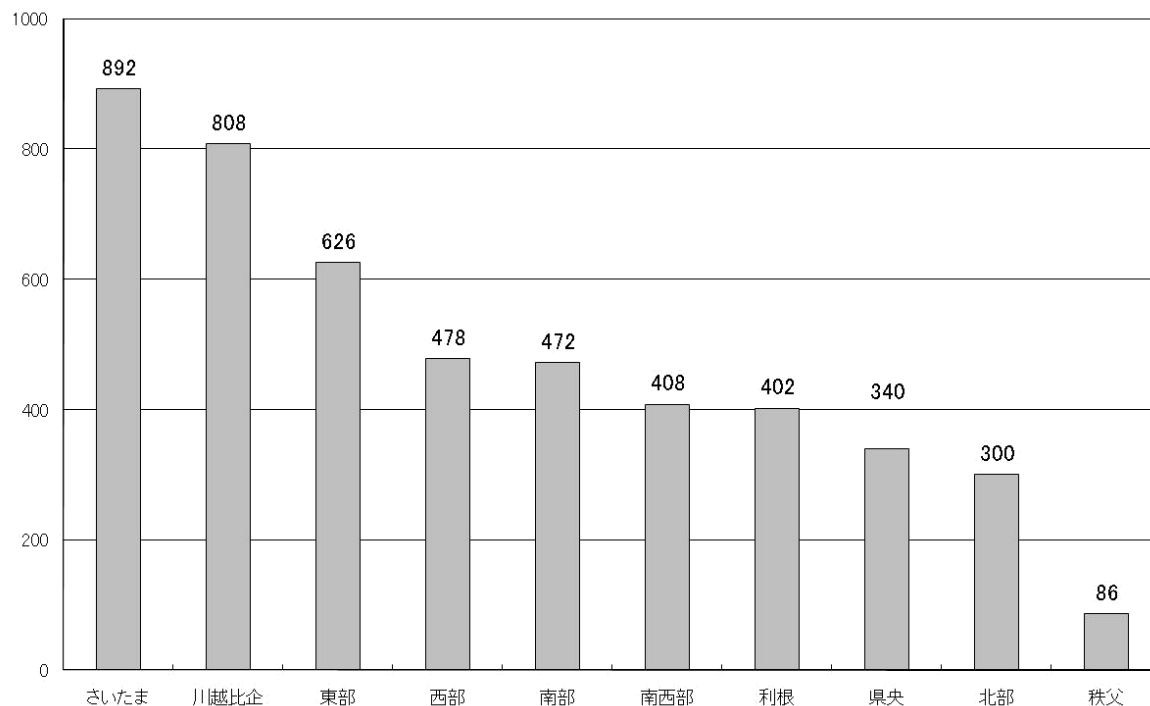
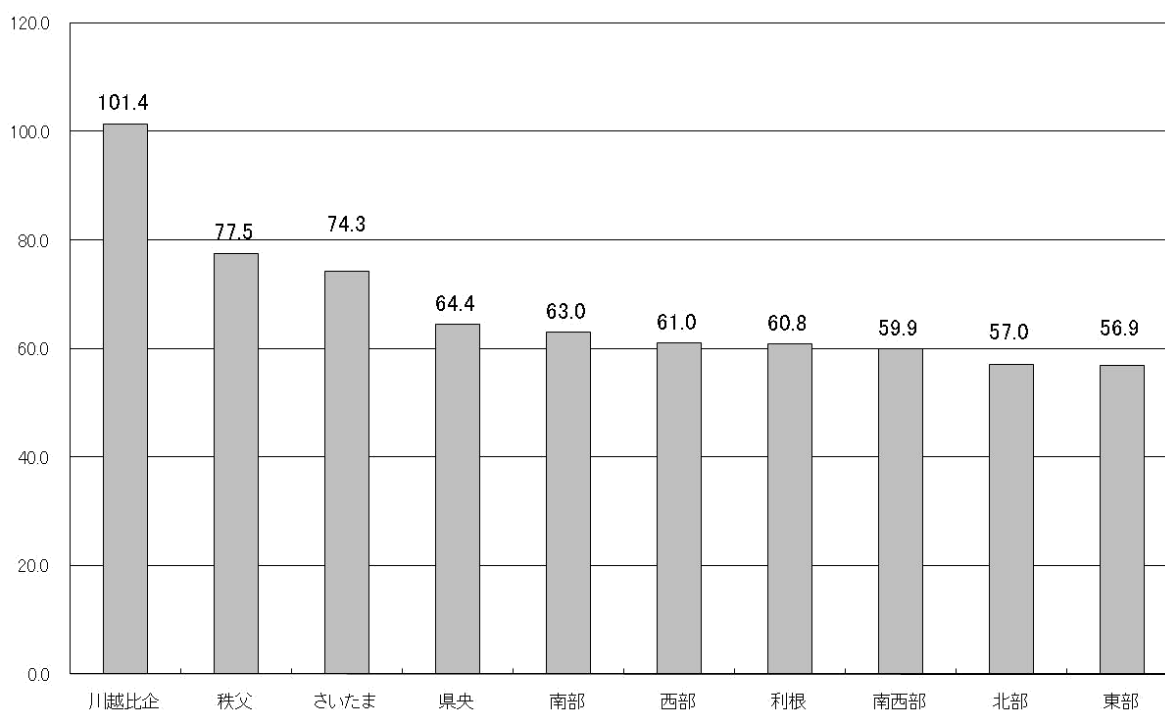


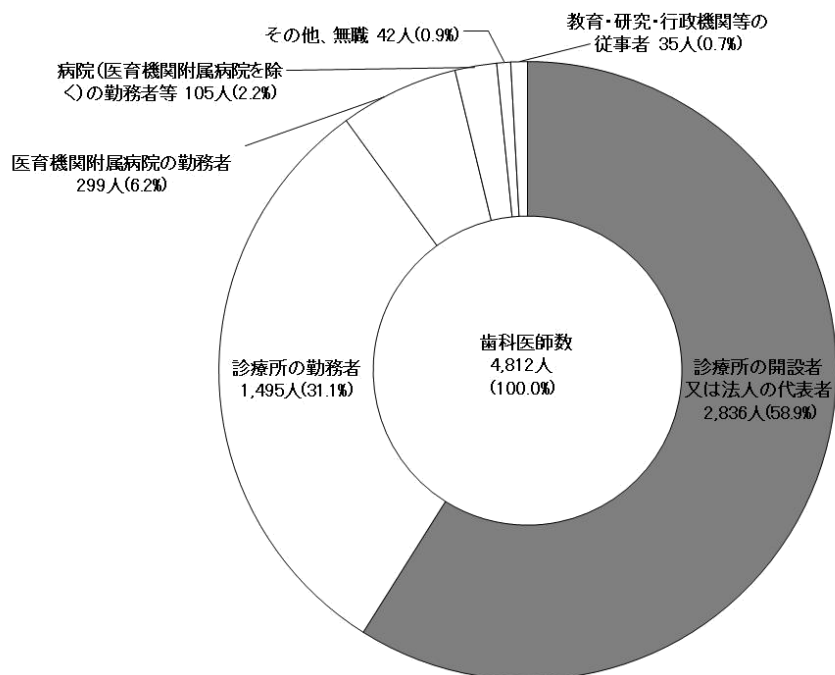
図 52 保健医療圏別にみた人口 10 万対歯科医師数



(3) 業務の種類別にみた歯科医師数

歯科医師数を業務の種類別にみると、4,735人（総数の98.4%）が、医療施設の従事者であり、その内訳をみると、診療所の開設者又は法人の代表者が2,836人（同58.9%）と最も多く、診療所の勤務者の1,495人（同31.1%）がこれに次いでおり、両者を合わせると、全体の約9割を占めている。（図53）

図53 業務の種類別にみた歯科医師の構成割合（従業地）



### 3 薬剤師

#### (1) 薬剤師数

平成20年12月31日現在の薬剤師数（従業地）は、12,719人であり、前回調査年の平成18年（11,742人）に比べ977人、8.3%増加している。

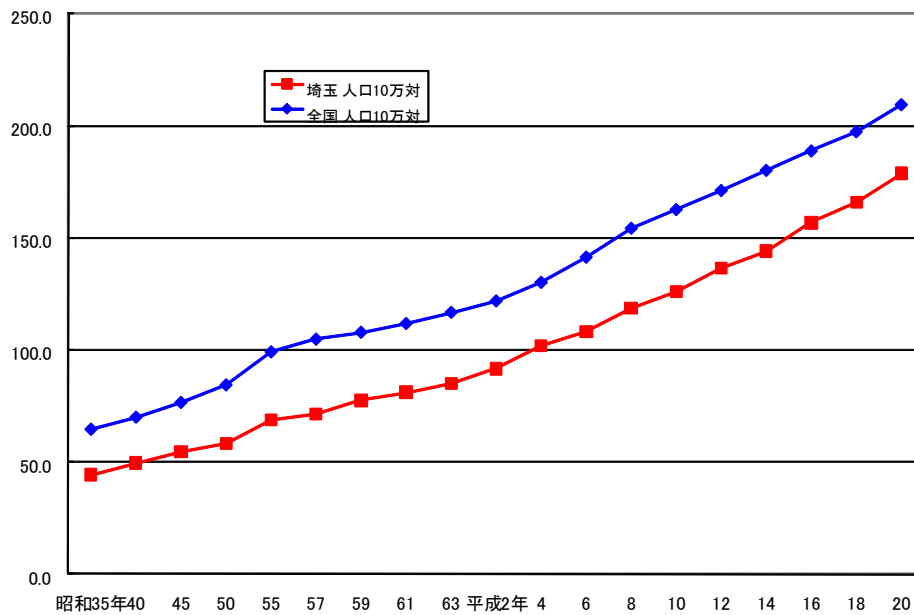
人口10万対薬剤師数は、178.8人であり、平成18年（166.1人）に比べ12.7人増加している。これを全国（209.7人）と比較すると、30.9人少なくなっており、全国第26位である。

表41 薬剤師数の年次推移（従業地）

	昭和 35 年	40	45	50	55	61	平成 4 年	10	16	18	20	
埼玉	薬剤師数	1 077	1 495	2 113	2 813	3 717	4 823	6 683	8 682	11 050	11 742	12 719
	人口 10 万対	44.3	49.6	54.7	58.3	68.8	81.1	101.9	125.9	156.8	166.1	178.8
全国	薬剤師数	60 257	68 674	79 393	94 362	116 056	135 990	162 021	205 953	241 369	252 533	267 751
	人口 10 万対	64.5	69.9	76.5	84.3	99.1	111.8	130.2	162.8	189.0	197.6	209.7

各年12月31日現在

図54 人口10万対薬剤師数の年次推移（従業地）





(2) 保健医療圏別にみた薬剤師数

ア 薬剤師数を保健医療圏別にみると、さいたまの2,895人が最も多く、川越比企の1,754人、東部の1,580人がこれに次いでいる。(図55)

イ 人口10万対薬剤師数では、さいたまの241.1人が最も多く、川越比企の220.2人、北部の178.8人がこれに次いでいる。(図56)

図55 保健医療圏別にみた薬剤師数

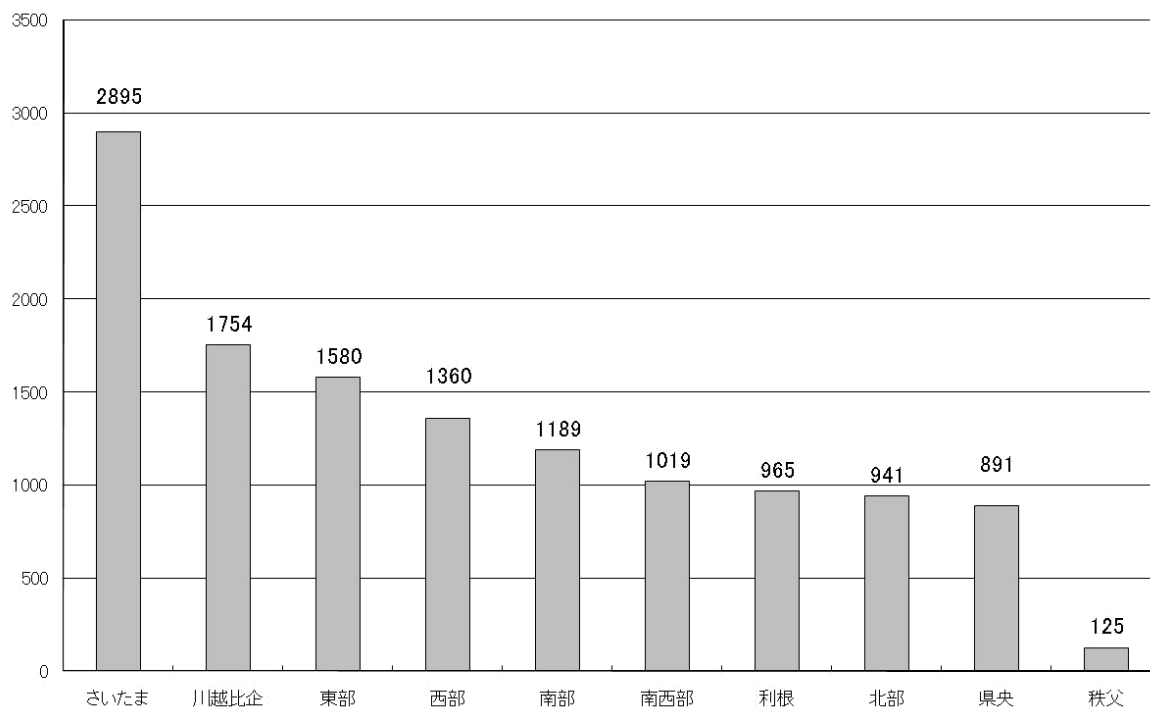
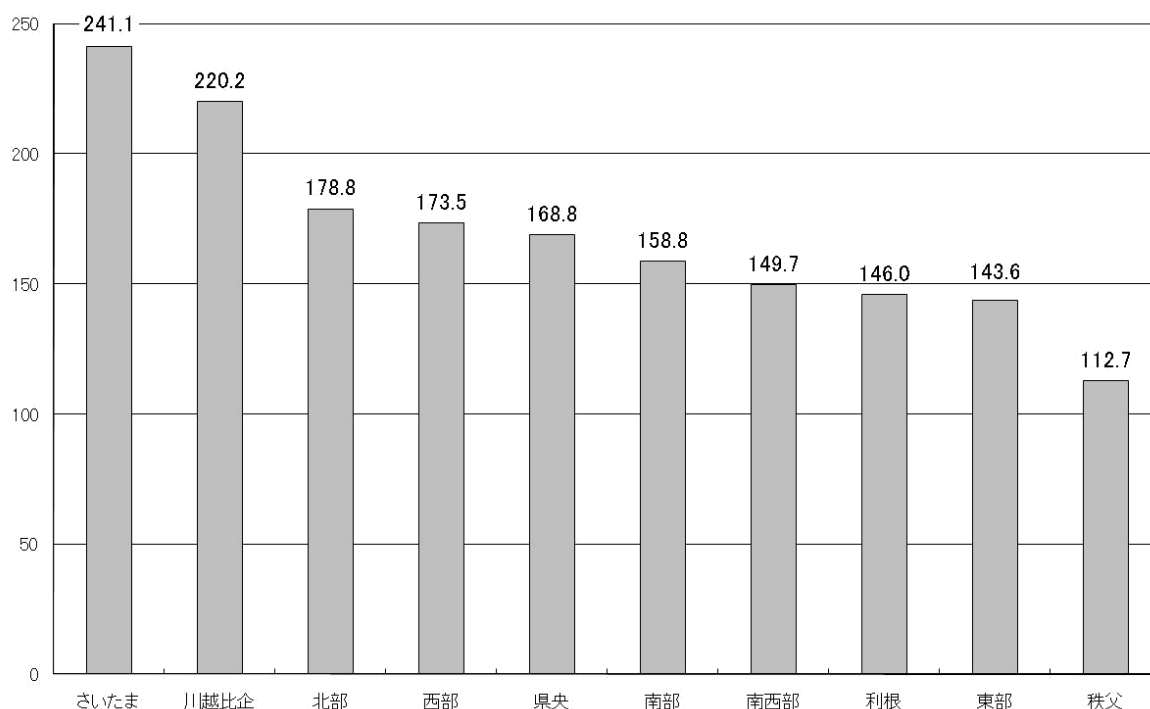


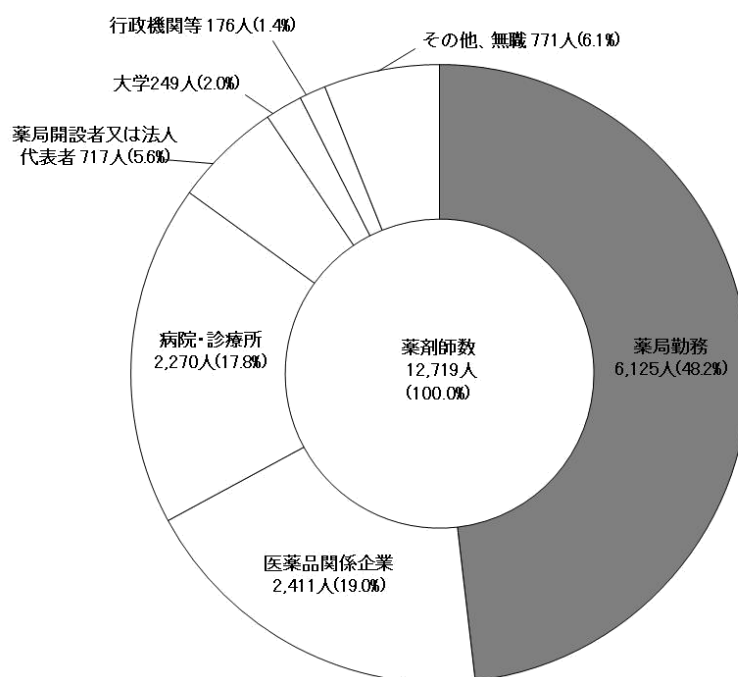
図56 保健医療圏別にみた人口10万対薬剤師数



(3) 業務の種類別にみた薬剤師数

薬剤師数を業務の種類別にみると、9,112人（総数の72.0%）が、薬局・医療施設の従事者であった。その内訳をみると、薬局の勤務者が6,125人（同48.2%）、医薬品関係企業に従事する者が2,411人（同19.0%）、病院又は診療所に従事する者が2,270人（同17.8%）などとなっている。（図57）

図57 業務の種類別にみた薬剤師の構成割合（従業地）



#### 4 保健師

##### (1) 就業保健師数

平成20年12月31日現在の就業保健師数は、1,616人であり、前回調査年の平成18年(1,505人)に比べ111人、7.4%増加している。

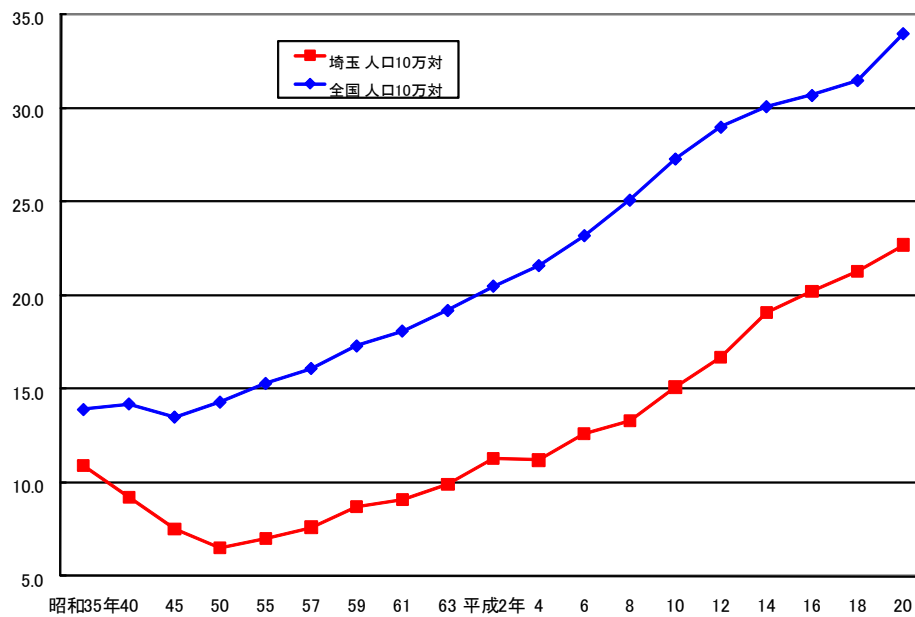
人口10万対就業保健師数は、22.7人であり、平成18年(21.3人)に比べ1.4人増加している。これを全国(34.0人)と比較すると、11.3人少なくなっており、全国第45位である。

表42 就業保健師数の年次推移(就業地)

		昭和35年	40	45	50	55	61	平成4年	10	16	18	20
埼玉	保健師数	265	276	289	315	379	540	738	1,040	1,425	1,505	1,616
	人口10万対	10.9	9.2	7.5	6.5	7.0	9.1	11.2	15.1	20.2	21.3	22.7
全国	保健師数	13,010	13,959	14,007	15,962	17,957	22,050	26,909	34,468	39,195	40,191	43,446
	人口10万対	13.9	14.2	13.5	14.3	15.3	18.1	21.6	27.3	30.7	31.5	34.0

各年12月31日現在

図58 人口10万対就業保健師数の年次推移(就業地)



(2) 保健医療圏別にみた保健師数

ア 就業保健師数を保健医療圏別にみると、さいたまの 262 人が最も多く、川越比企の 226 人、東部の 192 人がこれに次いでいる。(図 59)

イ 人口 10 万対就業保健師数では、秩父の 46.9 人が最も多く、川越比企の 28.4 人、利根の 28.0 人がこれに次いでいる。(図 60)

図 59 保健医療圏別にみた保健師数（就業地）

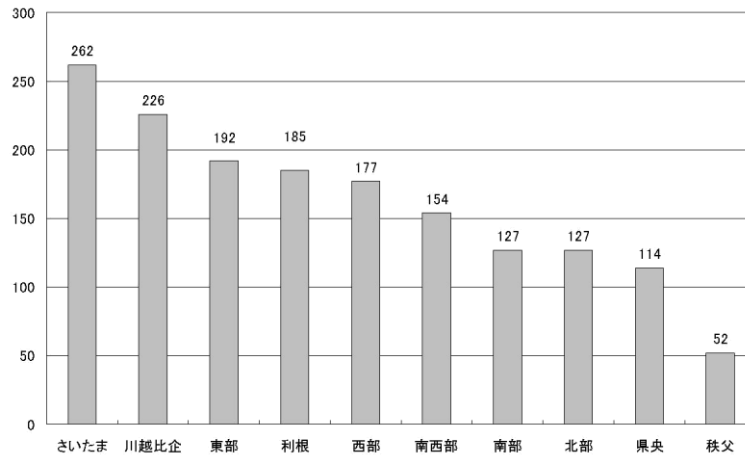
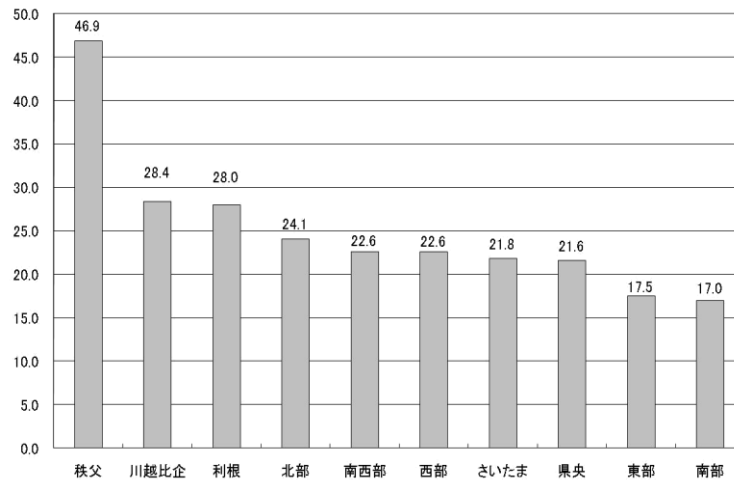


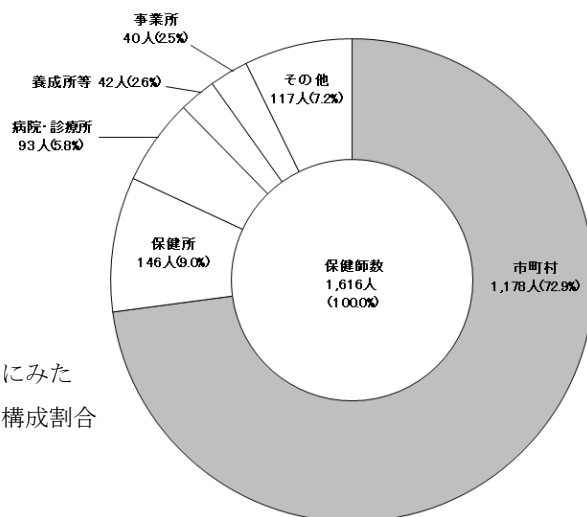
図 60 保健医療圏別にみた人口 10 万対保健師数（就業地）



(3) 就業場所別にみた保健師数

就業保健師数を就業場所の種別にみると、市町村が 1,178 人（総数の 72.9%）と最も多く、保健所の 146 人（同 9.0%）がこれに次いでいる。(図 61)

図61  
就業場所別にみた  
保健師の構成割合



## 5 助産師

### (1) 就業助産師数

平成20年12月31日現在の就業助産師数は、1,150人であり、前回調査年の平成18年(1,008人)に比べ42人、14.1%増加している。

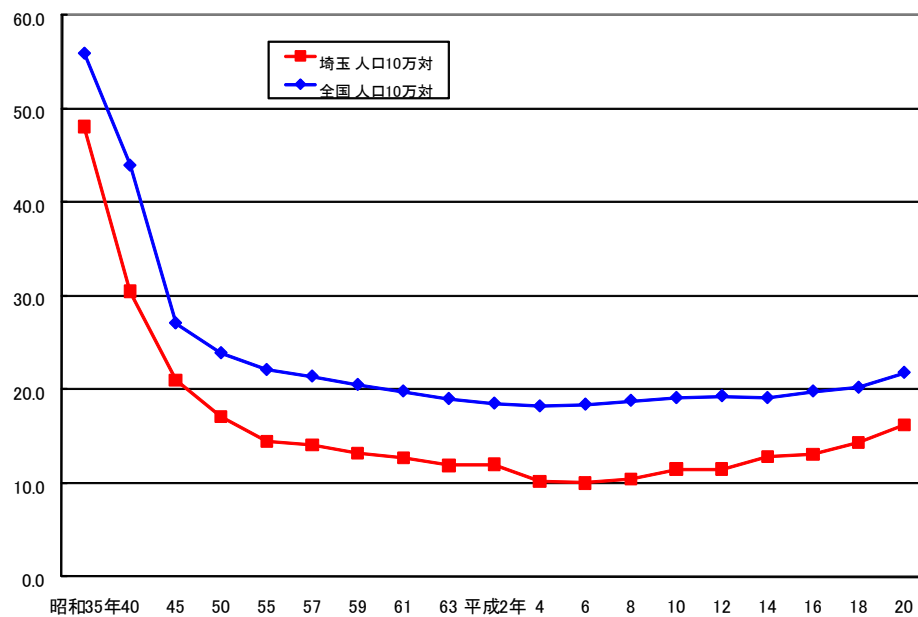
人口10万対就業助産師数は、16.2人であり、平成18年(14.3人)に比べ1.9人増加している。これを全国(21.8人)と比較すると、5.6人少なくなっており、全国第45位である。

表43 就業助産師数の年次推移(就業地)

	昭和35年	40	45	50	55	61	平成4年	10	16	18	20	
埼玉	助産師数	1 169	921	812	822	786	758	669	795	925	1 008	1 150
	人口10万対	48.1	30.5	21.0	17.1	14.5	12.7	10.2	11.5	13.1	14.3	16.2
全国	助産師数	52 337	43 276	28 087	26 742	25 867	24 056	22 690	24 202	25 257	25 775	27 789
	人口10万対	56.0	44.0	27.1	23.9	22.1	19.8	18.2	19.1	19.8	20.2	21.8

各年12月31日現在

図62 就業助産師数の年次推移(就業地)



(2) 保健医療圏別にみた助産師数

ア 就業助産師数を保健医療圏別にみると、さいたまの221人が最も多く、南部の179人、川越比企の168人がこれに次いでいる。(図63)

イ 人口10万対就業助産師数では、南部の23.9人が最も多く、川越比企の21.1人、さいたまの18.4人がこれに次いでいる。(図64)

図63 保健医療圏別にみた助産師数(就業地)

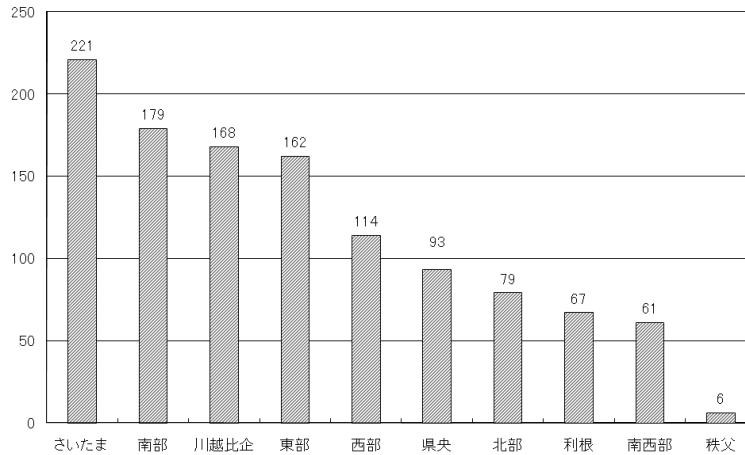
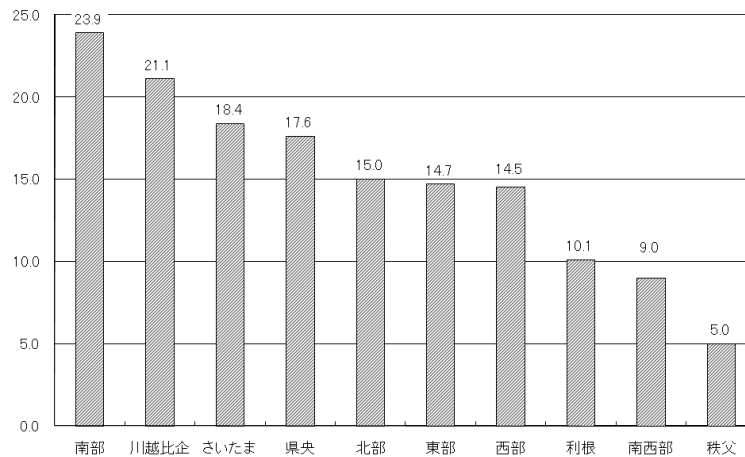


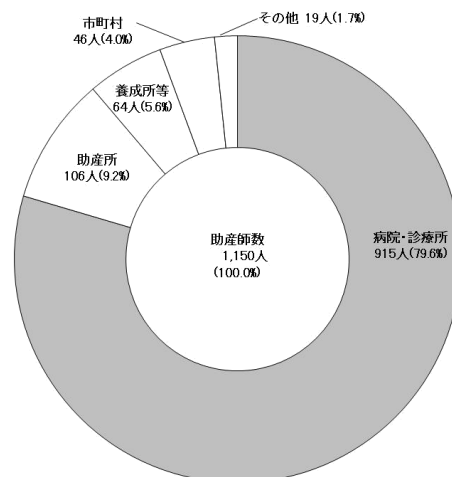
図64 保健医療圏別にみた人口10万対助産師数(就業地)



(3) 就業場所別にみた助産師数

就業助産師数を就業場所別にみると、病院・診療所が915人(総数の79.6%)と最も多く、助産所の106人(同9.2%)がこれに次いでいる。(図65)

図65 就業場所別にみた助産師の構成割合



## 6 看護師

### (1) 就業看護師数

平成20年12月31日現在の就業看護師数は、31,652人であり、前回調査年の平成18年(28,822人)に比べ2,830人、9.8%増加している。

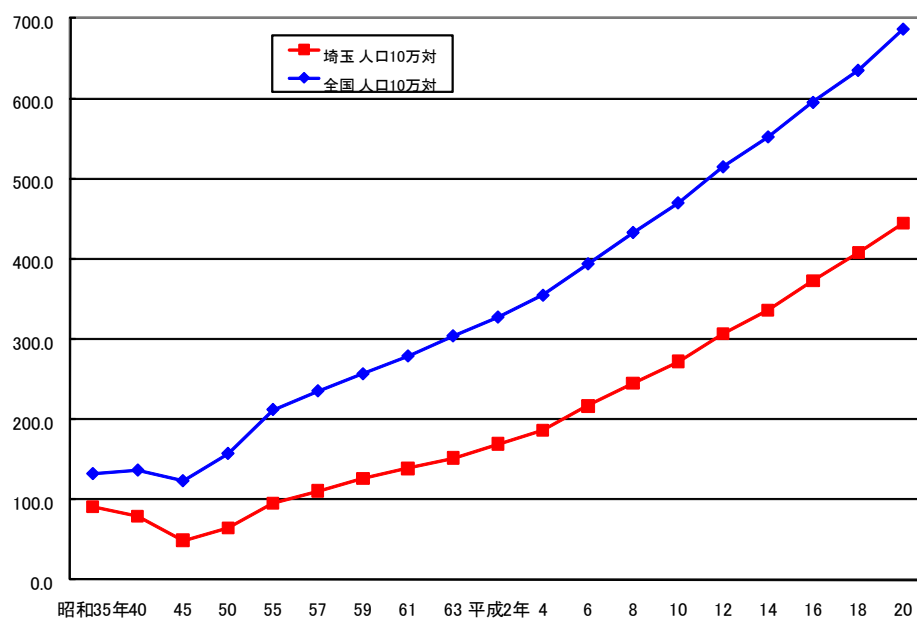
人口10万対就業看護師数は、445.0人であり、平成18年(407.6人)に比べ37.4人増加している。これを全国(687.0人)と比較すると、242.0人少なくなっており、全国第47位である。

表44 就業看護師数の年次推移(就業地)

	昭和35年	40	45	50	55	61	平成4年	10	16	18	20	
埼玉	看護師数	2 219	2 382	1 897	3 098	5 149	8 265	12 243	18 762	26 291	28 822	31 652
	人口10万対	91.3	79.0	49.1	64.3	95.0	138.9	186.6	272.1	373.1	407.6	445.0
全国	看護師数	123 226	133 985	127 580	175 841	248 165	339 258	441 309	594 447	760 221	811 972	877 182
	人口10万対	131.9	136.3	123.0	157.1	212.0	278.8	354.6	470.0	595.4	635.5	687.0

各年12月31日現在

図66 人口10万対就業看護師数の年次推移(就業地)



(2) 保健医療圏別にみた看護師数

ア 就業看護師数を保健医療圏別にみると、さいたまの5,707人が最も多く、川越比企の4,665人、東部の4,341人がこれに次いでいる。(図67)

イ 人口10万対就業看護師数では、川越比企の585.6人が最も多く、西部の522.2人、県央の510.5人がこれに次いでいる。(図68)

図67 保健医療圏別にみた看護師数(就業地)

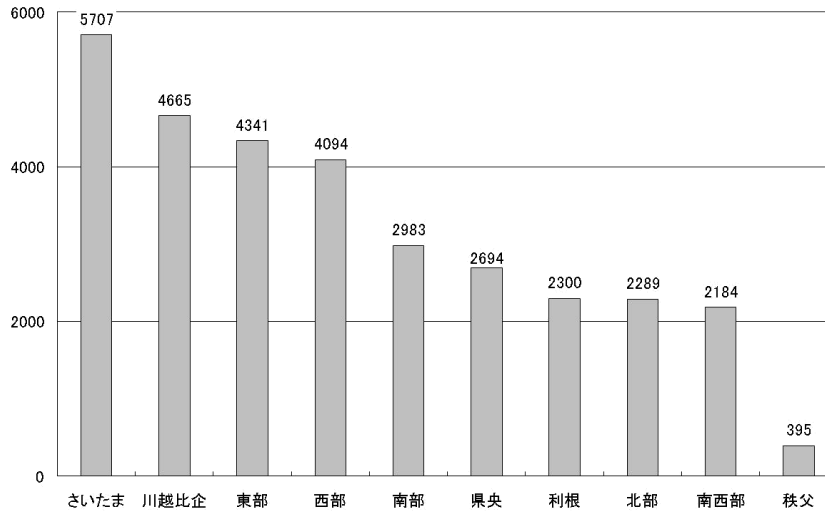
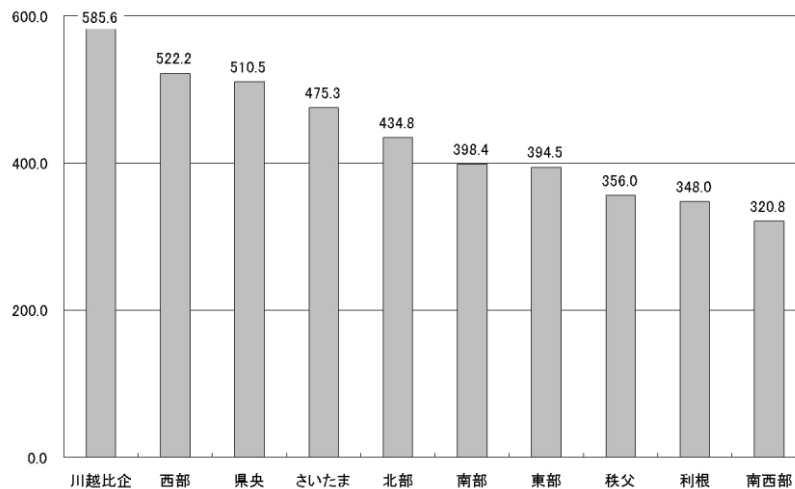


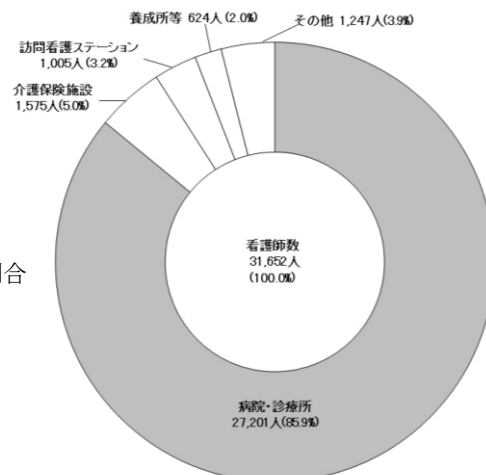
図68 保健医療圏別にみた人口10万対看護師数(就業地)



(3) 就業場所別にみた看護師数

就業看護師数を就業場所別にみると、病院・診療所が27,201人と最も多く、全体の85.9%を占めている。(図69)

図69 就業場所別にみた看護師の構成割合





## 7 准看護師

### (1) 就業准看護師

平成20年12月31日現在の就業准看護師数は、15,333人であり、前回調査年の平成18年(15,517人)に比べ184人、1.2%減少している。

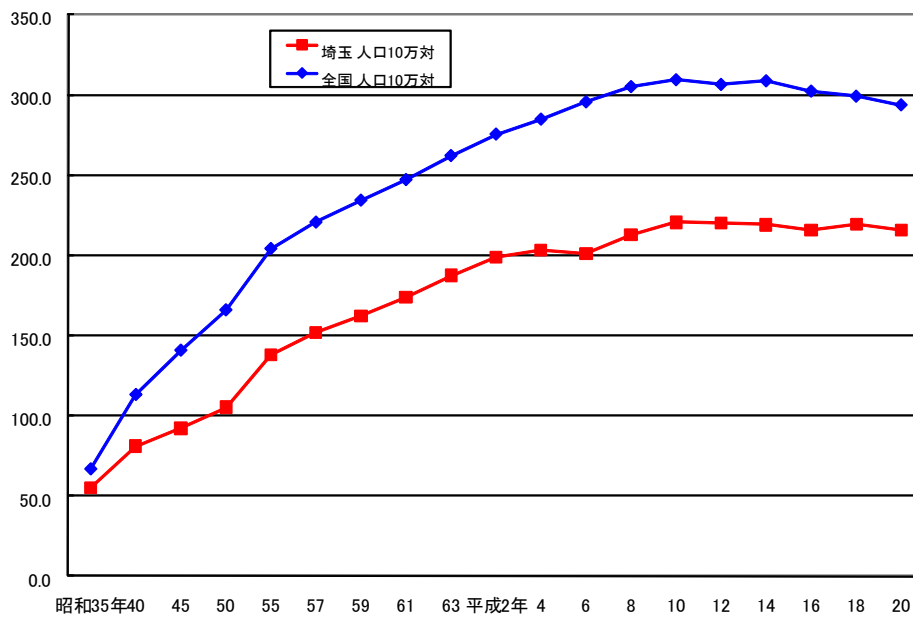
人口10万対就業准看護師数は、215.6人であり、平成18年(219.4人)に比べ3.8人減少している。これを全国(293.7人)と比較すると、78.1人少なくなっており、全国第42位である。

表45 就業准看護師数の年次推移(就業地)

	昭和35年	40	45	50	55	61	平成4年	10	16	18	20
埼玉											
准看護師数	1 337	2 442	3 559	5 073	7 482	10 342	13 328	15 200	15 201	15 517	15 333
人口10万対	55.0	81.0	92.1	105.2	138.0	173.8	203.1	220.5	215.7	219.4	215.6
全国											
准看護師数	62 366	111 226	145 992	185 763	239 004	300 678	354 501	391 374	385 960	382 149	375 042
人口10万対	66.8	113.2	140.8	165.9	204.2	247.1	284.8	309.4	302.3	299.1	293.7

各年12月31日現在

図70 人口10万対就業准看護師数の年次推移(就業地)



(2) 保健医療圏別にみた准看護師数

ア 就業准看護師数を保健医療圏別にみると、川越比企の2,015人が最も多く、さいたまの1,992人、東部の1,982人がこれに次いでいる。(図71)

イ 人口10万対就業准看護婦師数では、秩父の407.4人が最も多く、北部の350.9人、利根の266.4人がこれに次いでいる。(図72)

図71 保健医療圏別にみた准看護婦・士数(就業地)

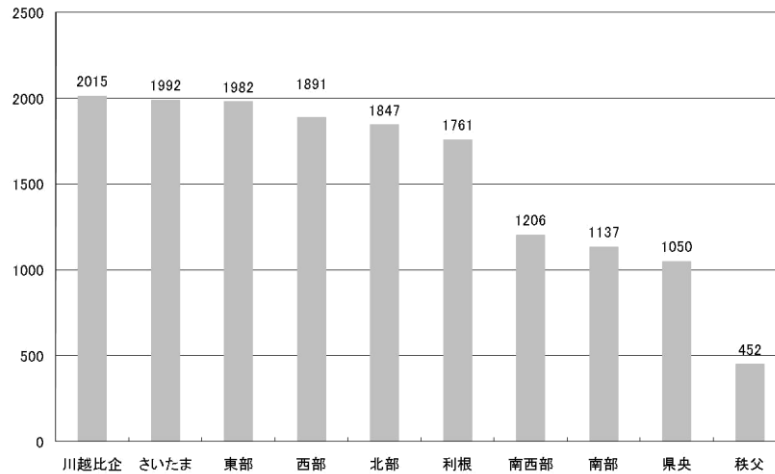
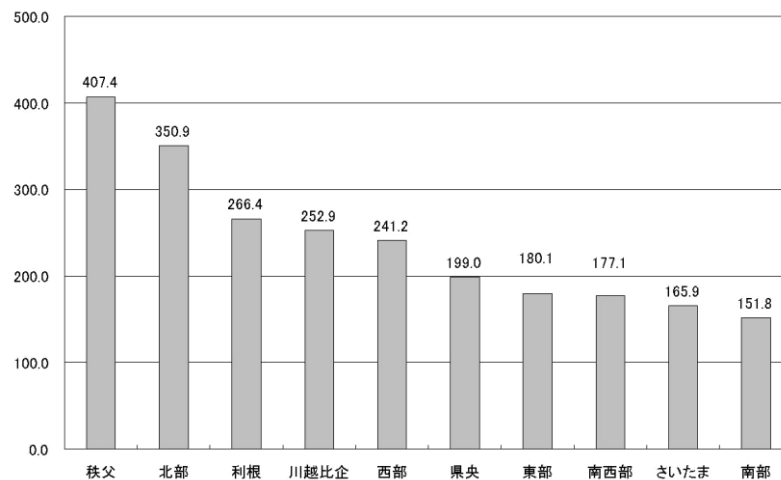


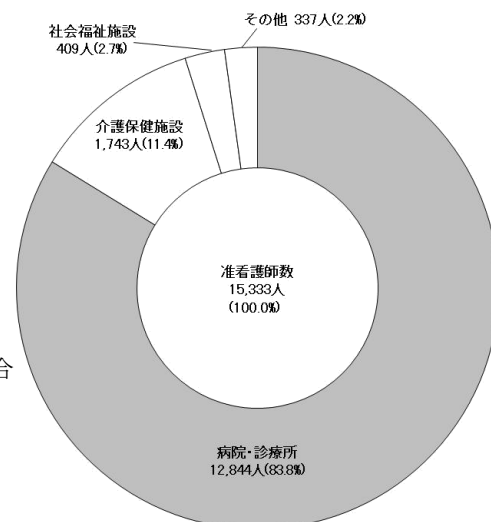
図72 保健医療圏別にみた人口10万対准看護師数(就業地)



(3) 就業場所別にみた准看護師数

就業准看護師数を就業場所別にみると、病院・診療所が12,844人と最も多く、全体の83.8%を占めている。(図73)

図73 就業場所別にみた准看護師の構成割合



## 8 歯科衛生士

### (1) 就業歯科衛生士数

平成20年12月31日現在の就業歯科衛生士数は、4,023人であり、前回調査年の平成18年(3,665人)に比べ358人、9.8%増加している。

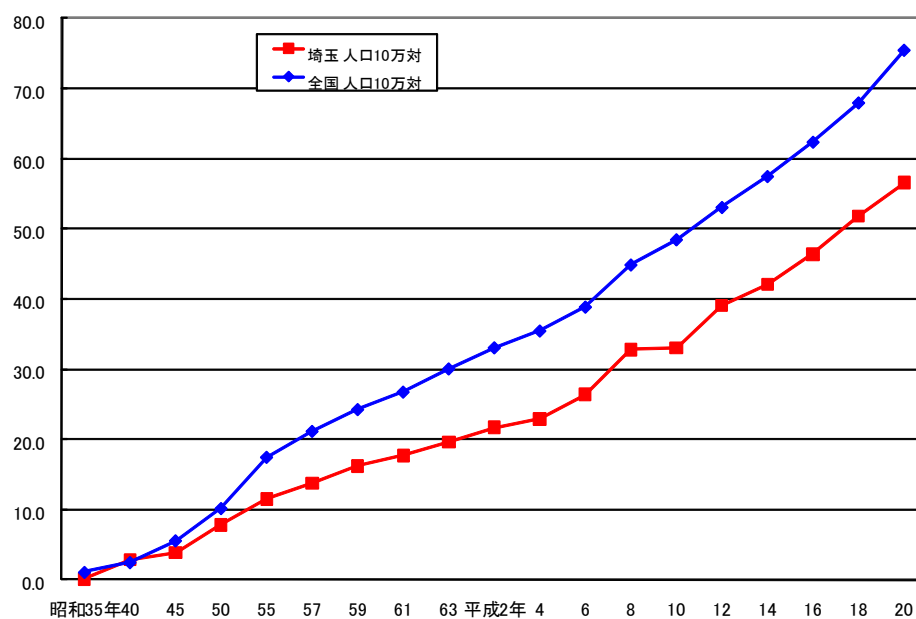
人口10万対就業歯科衛生士数は、56.6人であり、平成18年(51.8人)に比べ4.8人増加している。これを全国(75.5人)と比較すると、18.9人少なくなっており、全国第43位である。

表46 就業歯科衛生士数の年次推移 (就業地)

	昭和 35 年	40	45	50	55	61	平成 4 年	10	16	18	20
埼玉	3	84	152	377	626	1 056	1 501	2 273	3 270	3 665	4 023
人口 10 万対	0.1	2.8	3.9	7.8	11.5	17.7	22.9	33.0	46.4	51.8	56.6
全国	1 062	2 478	5 804	11 440	20 501	32 666	44 219	61 331	79 695	86 939	96 442
人口 10 万対	1.1	2.5	5.6	10.2	17.5	26.8	35.5	48.5	62.4	68.0	75.5

各年12月31日現在

図74 人口10万対就業歯科衛生士数の年次推移 (就業地)



(2) 保健医療圏別にみた歯科衛生士数

ア 就業歯科衛生士数を保健医療圏別にみると、さいたまの 898 人が最も多く、東部の 539 人、利根の 430 人がこれに次いでいる。(図 75)

イ 人口 10 万対就業歯科衛生士数では、さいたまの 74.8 人が最も多く、秩父の 73.0 人がこれに次いでいる。(図 76)

図 75 保健医療圏別にみた歯科衛生士数 (就業地)

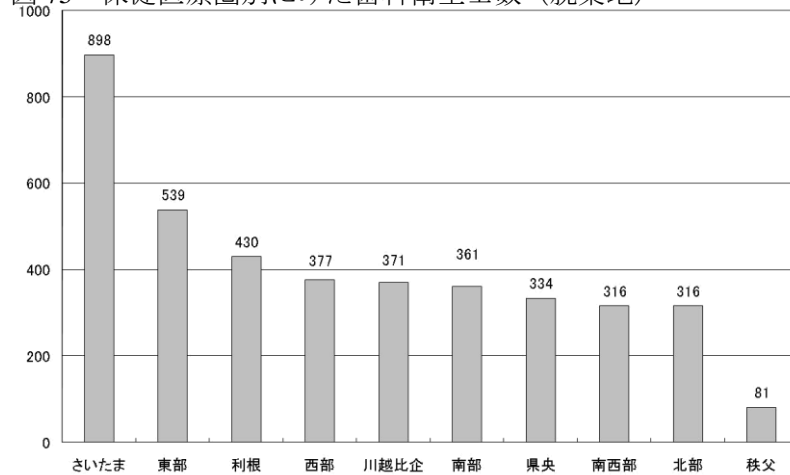
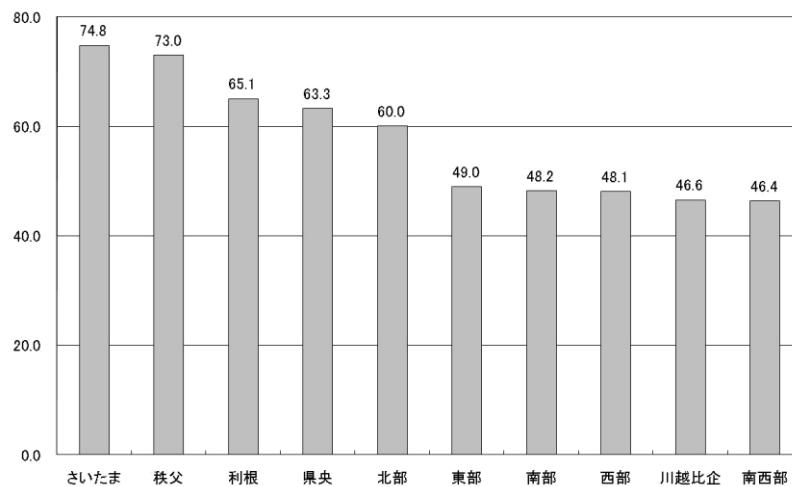


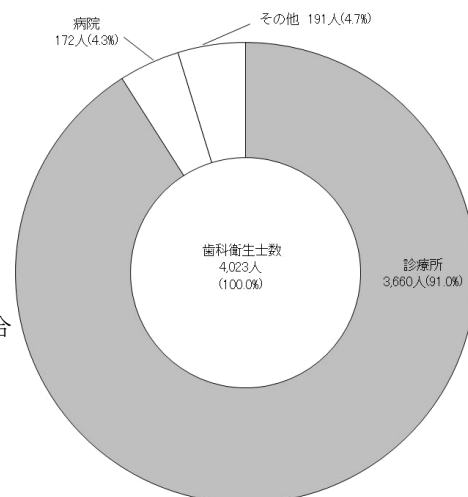
図 76 保健医療圏別にみた人口 10 万対歯科衛生士数 (就業地)



(3) 就業場所別にみた歯科衛生士数

就業歯科衛生士数を就業場所別にみると、診療所が 3,660 人と最も多く、全体の 91.0% を占めている。(図 77)

図 77 就業場所別にみた歯科衛生士の構成割合



## 9 歯科技工士

### (1) 就業歯科技工士

平成20年12月31日現在の就業歯科技工士数は、1,163人であり、前回調査年の平成18年(1,190人)に比べ27人、2.3%減少している。

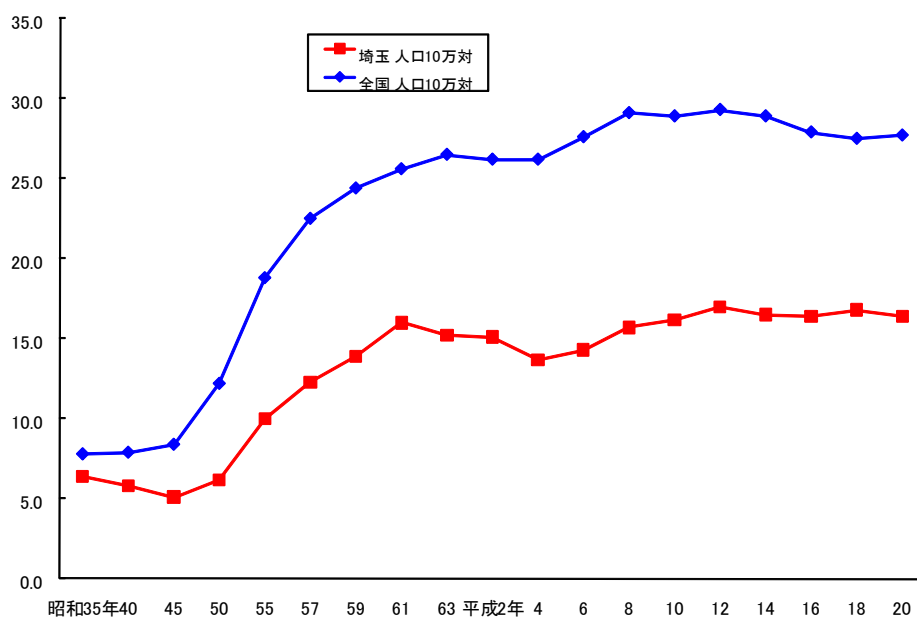
人口10万対就業歯科技工士数は、16.4人であり、平成18年(16.8人)に比べ0.4人減少している。これを全国(27.5人)と比較すると、11.3人少なくなっており、全国第47位である。

表47 就業歯科技工士数の年次推移(就業地)

		昭和35年	40	45	50	55	61	平成4年	10	16	18	20
埼玉	歯科技工士数	155	174	199	297	543	953	900	1,117	1,159	1,190	1,163
	人口10万対	6.4	5.8	5.1	6.2	10.0	16.0	13.7	16.2	16.4	16.8	16.4
全国	歯科技工士数	7,267	7,748	8,722	13,622	22,008	31,139	32,629	36,569	35,668	35,147	35,337
	人口10万対	7.8	7.9	8.4	12.2	18.8	25.6	26.2	28.9	27.9	27.5	27.7

各年12月31日現在

図78 人口10万対就業歯科技工士数の年次推移(就業地)



(2) 保健医療圏別にみた歯科技工士数

ア 就業歯科技工士数を保健医療圏別にみると、さいたまの 292 人が最も多く、川越比企の 152 人、東部の 122 人がこれに次いでいる。(図 79)

イ 人口 10 万対就業歯科技工士数では、さいたまの 24.3 人が最も多く、北部の 20.7 人、川越比企の 19.1 人がこれに次いでいる。(図 80)

図 79 保健医療圏別にみた歯科技工士数 (就業地)

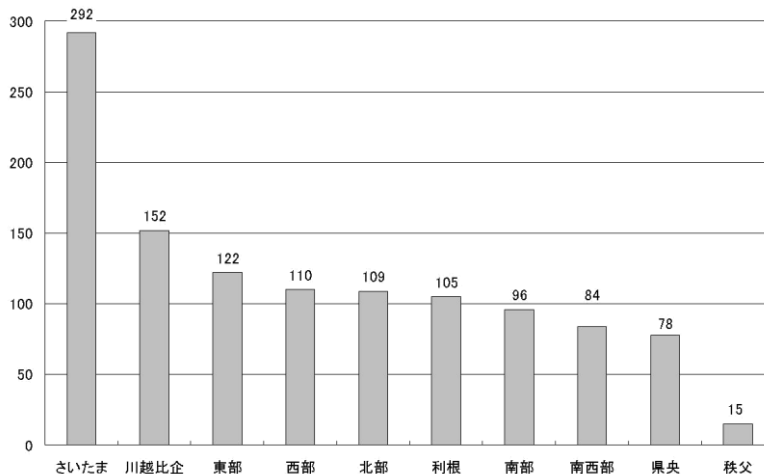
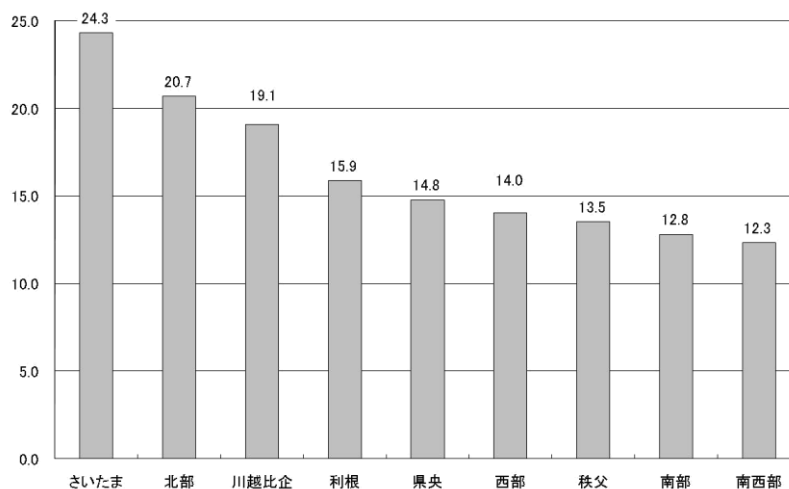


図 80 保健医療圏別にみた人口 10 万対歯科技工士数 (就業地)



(3) 就業場所別にみた歯科技工士数

就業歯科技工士数を就業場所別にみると、技工所が 897 人と最も多く、全体の 77.1%を占めている。(図 81)

図 81 就業場所別にみた歯科技工士の構成割合

